

●○○ 第217回あすか倶楽部 定例会 ●○○

テーマ：改めて学ぶ、豊洲市場移転の意義と新たな展開

講師：東京都中央卸売市場 管理部 広報・組織担当課長

沼倉 護 氏（消費生活アドバイザー30期）

日時：2019年11月16日（土）14:00～17:00

場所：三会堂ビル8階 （一社）大日本水産会 大会議室

① 豊洲市場の概要

- ・東京都内11か所に卸売市場。旧築地市場は取扱金額・水産物取扱量共に全国一位。
- ・大間のまぐろや北海道の水産品も豊洲を経由する
- ・東京都は施設の整備管理運営を担当、卸売市場法による。
- ・都道府県単位での運営は珍しい。
- ・中央市場で働く人たち→卸売業者・仲卸業者・売買参加者・買出人・関連事業者・開設者
- ・卸売市場の機能→集荷・分荷・価格形成・衛生保持・取引決済・流通経費軽減・情報提供
- ・物流の中継機能や災害時の対応機能も担う。
- ・豊洲の価格が全国の建値（たてね）になる。
- ・敷地は築地の1.6倍、銀座1丁目～8丁目に匹敵する。
- ・築地より2.3km離れているが、道路網では豊洲の方が有利。

② 豊洲移転までの経緯

- ・当初日本橋・神田に存在した市場、関東大震災により築地へ移転。
- ・昭和30年代は鉄道輸送→トラック輸送が主力になる。
- ・平成初期まで築地での再整備を試みたものの中断・中止、業務継続中の工事困難。
- ・平成13年、豊洲移転決定。
- ・平成28年、小池知事による移転延期決定。
- ・平成30年、開場。

③ 安全安心の確保

- ・土壌汚染対策（地下水の環境基準超過）追加工事→コンクリート敷設・揚水ポンプ
- ・専門家会議による安全性確認→小池知事安全宣言
- ・HP上で毎月の空気中化学物質濃度を公開している。

④ 豊洲市場のコンセプト

1、食の安全安心の確保

- ・開放型（築地）→閉鎖型（豊洲）、シートシャッター・ドックシェルター等温度管理。
- ・入場管理室での手・靴の消毒（築地ではトイレで実施）。

2、効率的な物流の実現

- ・物流に配慮された導線、物流のワンウェイ化。

3、多様なニーズへの対応

- ・加工パッケージ施設・転配送施設（温度管理施設）。

⑤ 豊洲市場開場後の現状と課題

（ニュース映像視聴）

○取引量の減少：2300t→1300t（移転が原因ではない）

→・魚食普及の取組（魚流通量の確保・食育）

- ・卸売市場法改正→柔軟な取引ルールに
- ・世界の豊洲ブランドへ、海外への市場開拓

○にぎわいの創出

→・市場活性化を考える会

- ・イベント開催
- ・インバウンド対応、QRコードガイド導入
- ・一般客の呼び込み、仲卸開放

○ターレの事故

→・運用ルールの厳守化、減速帯整備、見守り警備

⑥ 今後の展開

・千客万来施設、令和5年開業予定。

・令和2年、期間限定施設開業予定。

【質疑応答】

○1～4街区が無いのは何故か？→豊洲地域全体の街区名称

○築地の跡地利用は？→4ブロックに分割して有効活用予定、具体的には未決定

○冷暖房エコ対応は？→地域冷暖房システム運用

○他市場での閉鎖型対応は？→大田市場では新たなパッケージ施設計画有、全市場対応は困難

○アクセス性の向上は？

→・2020年虎ノ門からBRT開通予定

- ・地下鉄延伸構想有（十数年先？）
- ・都バス増便にも配慮
- ・有楽町線及びゆりかもめの始発が早くなっている（近隣苦情配慮）

○収支赤字／黒字化への見通しは？

→・減価償却が高いので、短期的な黒字化は困難

- ・東京都卸売市場全体としても、豊洲が加算されたことにより赤字
- ・神田市場売却益の運用等により税金による補填は無い

○観光機能と本来の市場機能の棲み分けは？→市場の必要性アピールのため観光対応は必要

○卸売業者寡占・独占の懸念は？→単一卸売業者でも市場の公正は保たれている。

○豊洲では魚臭を感じなかった→清掃ルール見直し等対策推進、清掃車導入・廃棄物リサイクル等。

○船便は使用していないか？→一部伊豆諸島から受け入れ。

○災害対策は？

- ・液状化対策・水害対策・機能分散も含めて対応
- ・自家発電設備有、停電時に機能した。

【所感】

開場前から開場後に至り、様々な取り組みが実施されている事に深い感銘を受けた。

消費者志向の多様化を意識した温度管理や、閉鎖構造を中心とした安全安心に対する取り組みは高く評価のできるものであると感じた。

エコに対する取り組みや、災害対策等も非常に興味深いものであった。

「千客万来施設」の開業やBRTの開通等、今後の取組にも期待してゆきたい。

報告者 33期 坂本 豊